

土地宝典を新に刊行

地区別に分冊して

昭和初期に発行された町の土地宝典は、その後区画整理や宅地造成その他で多くの異動があり、現状とそぐわない点が沢山あって不便を感じて

いましたところ、今回新しく地番、地目、地積などを入れ、二千四百分の一のものをも帝国地図会社が刊行することになりました。

こん年度の宝典は横芝地区、上堺地区、大総地区の三つに分冊して発行し、価格は一冊六千円(市販はしない)で、発行者の帝国地図が、役場税務課で予約申込みを受けましたが、役場での受付けは五月二十日までとなっています。この五月から逐次一冊ずつ完成したものを発行して、現品と引換えに代金を支払っていただくことになっていま

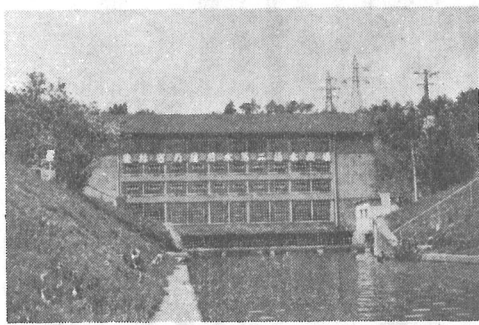
すので、予約金は納める必要ありません。そのうちに発行者の係員が見本を持って註文とりにうかがうと言ってまいりますし、役場税務課にも八日市場市の土地宝典が見本として置いてありますのでご覧になれます。なお希望者があまり少ないと発行を中止する場合もあるとのことですからお済みおき下さい。

ているが勿論見えない。左手の赤壁のような堤が切れるところに砂利路が見える。ここを約二十メートルおりのそのサイフォンが露出してらば相等急流となっているので岸に入らないよう注意を要する。元の県道に戻り、両側の赤壁がなくなるまで上りきると目の前が急に開け、左手に植木の見本圃場が見える。足が

ふる里の散歩みち (その一)

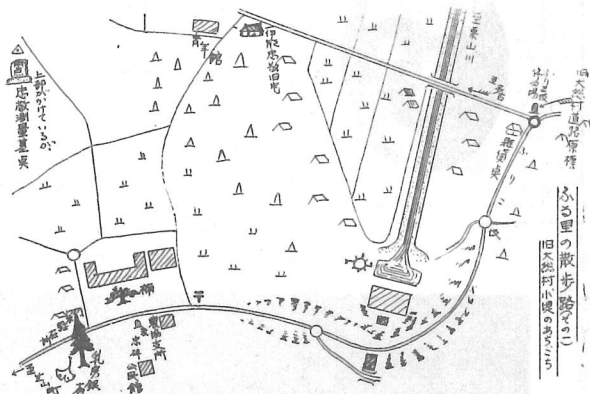
旧大総村町原・小堤

暫らく御馴みをいただいておりましたふる里の話題は本号からいまままでの伝説史実を中心にしたふる里の散歩路を掲載することになりました。遠来の客の案内、御家族連の散策に御利用いただければ幸いです。



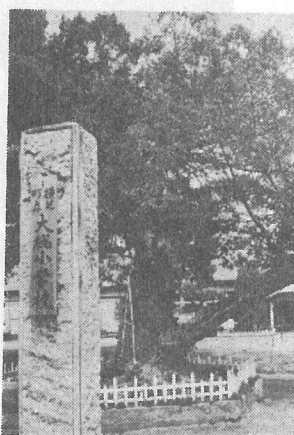
小堤の振子坂下にある農林省両総用水第二揚水機場

横芝駅から千葉交通の多古行で約十五分、振子坂という停留場で下車すると、すぐ前に石橋があり、大総橋と刻んである。この下を流れているのは両総用水路である。橋の上を立って左の方を眺めると丘の中腹に揚水機場の建物が見えこの流れを吸込んで流れている。橋の手前から流沿いに揚水機場を訪れ



て、若し係員が居たならば此の揚水能力等を聞くのもよい。都合がよければ内部の見学も許される。建物の後には石段がありこれを昇るとサイフオンの取入口がある。ここは展望台のようになっていて遠く下総の台地までも一望

らいま来た水路を戻り、途中から堤の中腹伝いに県道に上ると相当急な坂道で、これがいわゆる振子坂である。ぐるりと揚水機場を巻き込むように県道を迂回し、丁度機場の真上に出ると此の道路の下がサイフォン通過ルートになっ



△明治、大正、昭和と開校以来、生徒を送り迎えて来た大総小学校庭の桜の老樹

に集まり定規を当てたように区画された大総の耕地を真二つに割って、満々と用水をたたえた水路が特に美しい。一息入れた正面に見えて来た家並は旧大総村の中心地で、小学校、公民館、駐在所、郵便局、農協支所等が眼白押に並んでいる。小学校の庭先に所狭しと枝を広げている楠は日清戦争の先、左の道端近くには本紙で紹介した伝説「乳房銀杏」

途中の畑徑を左に行けば伊能忠敬が日本全国測量の基点としたと伝えられる日吉台がある。県道を右に行けば元の大総橋に帰れる。途中伊能忠敬が十一才から十八才まで過したという神保家を訪れるのもよからう。用水路伝いに栗山川までの散策、また用水路や栗山川に釣糸を垂れる用意があればまた興は倍加されよう。元気な人達ならば栗山川堤防伝いに横芝駅に出れば結構一日の行楽地として楽しめる。